

23PO-am403

若年女性における月経前症候群と気質・性格との関連

○秋元 麻菜¹, 赤繁 初音¹, 山 佳織¹, 町田 麻依子¹, 三浦 淳¹ (¹北海道科学大薬)

【目的】月経前に抑うつ、不安、焦燥感などの症状が現れる病態を月経前症候群 (Premenstrual Syndrome, PMS) と呼ぶ。中でも日常生活に支障をきたすほど精神症状が重い場合、月経前不快気分障害 (Premenstrual Dysphoric Disorder, PMDD) と呼ぶ。当研究室では、PMS/PMDD を抱える女性は月経前後とも抑うつ傾向が高いことを報告した。うつ病の病前気質として損害回避傾向が高いことが報告されているが、PMS/PMDD を抱える女性の気質・性格に関する報告はない。そこで本研究では、若年女性における PMS/PMDD と気質・性格傾向との関連性を調査した。

【方法】対象は北海道科学大学の女子学生で、同意が得られた 67 名 (19 歳～24 歳) とした。「PMDD 評価尺度」(秋元ら、2009) を用い、PMDD、中等症 PMS、軽症 PMS～なしの判定を行い、PMDD と中等症 PMS を合わせて PMS(+) 群、軽症 PMS～なしを PMS(-) 群とした。気質・性格は、Temperament and Character Inventory-125 項目版(木島ら、1996) を用いて、新奇性追求、損害回避、報酬依存、固執 (以上、気質)、自己志向、協調性、自己超越 (以上、性格) を評価した。各スコアの群間比較を、Mann-Whitney の U 検定で行った。本研究は北海道薬科大学研究倫理委員会承認されている。

【結果・考察】PMDD 尺度の結果、PMS(-) 群は 45 名、PMS(+) 群は 22 名 (PMDD 6 名、中等症 PMS 16 名) であった。検定の結果、PMS(-) 群は PMS(+) 群に比べ、自己志向スコアが有意に高く ($P=0.023$ 、中央値 68 点 vs 63.5 点)、自己超越スコアが有意に低かった ($P=0.024$ 、24 点 vs 27.5 点)。しかし各スコアの差が小さかったため、医学的意義は不明である。一方、気質 4 次元のスコアに有意差がなかったことから、PMS/PMDD の発症に元来の気質は関係ないと考えられた。